明治学院大学図書館付属

日本近代音楽館

Archives of Modern Japanese Music

館 報（第2号）

目次

展覧会「五線譜に描いた夢―日本近代音楽の一五〇年」について
展覧会制作にあたって
展示構成
おもな出展資料
資料受入報告
◇日誌から◇
編集後記

展覧会「五線譜に描いた夢―日本近代音楽の一五〇年」について

樋口隆一

日本近代音楽館の膨大な資料を明治学院大学図書館に移管するにあたり、旧日本近代音楽財団の遠山一行理事長が望まれた唯一の条件は「公開の原則の堅持」であった。事実、二〇一一年五月の開館以来、日本各地、いや世界各地から日本近代音楽を研究する多くの方々からの問い合わせや来訪があり、各種の資料をご利用いただいている。

しかし、欧米各地の音楽図書館が、ことあるごとに意義深い展覧会を開催し、その研究の結果を図録として残し、次世代の研究者に伝えていることを知る身としては、ぜひとも明治学院創立一五〇年にあたる二〇一三年に大規模な展覧会を企画して、これらの貴重で興味深い資料の存在を、広く社会に知らしめる必要を感じていた。そのことを旧財団の理事でもあり、ＮＨＫ音楽部長や文化事業部長を歴任された故細野達也さんに相談したのは、二〇〇九年十二月のことだった。細野さんはすぐに展覧会の意義を理解され、当時事業センター長で、現在はＮＨＫプロモーション代表取締役社長の旭充さんをご紹介下さった。

幕末から現代にいたる日本の近代化の歴史絵巻を、西洋音楽の受容という観点で切り取ろうという展覧会のユニークさを、旭さんはすぐに見抜かれ、協力を約束された。そこであちこちの美術館に問い合わせて下さったのだが、なかなか折りよい返事はいただけない。やはり前例のない仕事というのは常に困難を伴うものだ。そんな難行苦行の最中に細野さんが亡くなられた。イタリア・オペラの招聘など、戦後日本の音楽の発展を陰で支えられた偉大な先輩の死に際し、なんとしてでもこの展覧会を実現させようと私たちは心に誓った。そして程なく、東京オペラシティアートギャラリーという理想的な会場が決まった。同館はすでに「武満徹」展を開催した実績があり、なによりもチーフキュレーターの堀元彰さんが、こうした展示内容に深い関心と理解をお持ちである。

日本経済新聞社の協力をいただけたのも有り難いことである。ヘボン門下として知られる益田孝によって明治九年に創立された「中外物価新報」を前身とする同社には、二〇〇一年に本学で開催したマルチメディア展「シェーンベルク没後五〇年」にも名義主催としてご協力いただいている。

展覧会の企画構成に関しては、長らく旧日本近代音楽館の主任司書を務められた林淑姫さんにお願いし、日本近代音楽館の所蔵資料を中心としながら、広く日本全国の図書館、資料館から資料を拝借することができた。これだけの重要資料が一堂に会する機会は、今後もなかなか無いであろう。その意味でも、「図録」の編集は重要だった。二九五点の展示資料のカラー図版に加え、それぞれの時代に関する解説、エッセイ、詳細年表や参考文献表も備えた全二五五頁の図録は、日本近代音楽史研究の基本的文献のひとつとして、多くの研究者に利用されてふさわしいものとなった。

この展覧会は、単なる資料の羅列ではない。それぞれの展示室では、それぞれのテーマを解説するビデオが上映され、三浦環などの貴重な音源を聴くこともできる。全八回にも及ぶミニコンサートも、ほかではめったに聴けない曲が多いため、「全部聴きたい」と意気込まれるリピーターも少なくなく、主催者を喜ばせている。

明治以来の日本の西洋音楽について調べていると、唱歌の創作に大きな貢献をなした小山作之助や納所弁次郎、日本最初のオペラを作曲した北村季晴、われらのテナーと讃えられた藤原義江、日本最初の本格的オルガニスト木岡英三郎など、数多くの明治学院出身者の存在に驚かされる。こうした隠れた歴史の発掘も含めて、この展覧会が、これからの日本の音楽研究の発展に寄与することを願っている。

（ひぐちりゅういち　明治学院大学文学部教授　本展総合監修）

展覧会制作にあたって

音楽を展示する

堀　元彰

「五線譜に描いた夢―日本近代音楽の一五〇年」は、音楽を通じて日本近代の歩みをふり返るという前例のない展覧会だが、開催にあたってもっとも頭を悩ませたのは、本来耳で聴く音楽を、目で見る展示に置き換えることだった。楽譜を見ただけでその楽曲がイメージできる来館者は少ない。かといって、すべての楽曲を再生することは、音の干渉など、さまざまな制約があって難しい。

最終的には、〈Ⅰ幕末から明治へ〉〈Ⅱ大正モダニズムと音楽〉〈Ⅲ昭和の戦争と音楽〉〈Ⅳ「戦後」から21世紀へ〉の各セクションのなかで、重要なトピックスを映像に編集してモニターで上映するコーナーを設けた。テレビマンユニオン製作のこの映像は全十本、総時間で一時間十五分以上に及び、たとえば、明治三年にフェントンが作曲した「君が代」の原曲を収録のために警視庁音楽隊が演奏してくれるなど、多方面から多大な協力を頂いた。また、〈Ⅱ大正モダニズムと音楽〉〈Ⅲ昭和の戦争と音楽〉の二つのセクションに、三浦環や藤原義江の歌、久野ひさのピアノ演奏など、当時の貴重な音源を聴くことができる視聴コーナーを設置したほか、〈Ⅳ「戦後」から21世紀へ〉に展示した実験工房のオートスライド二点も、ヘッドホンで福島和夫、鈴木博義の音楽を聴くことができるようにした。さらに、関連イベントとして、会期中会場内と近江楽堂において全八回のミニコンサートを企画し、展示資料に関連する楽曲の演奏の機会を設け、〝耳で聴く〟展示を工夫した。

最近美術館や博物館においてコンサートなどの音楽イベントが開催される機会も増えているが、音楽をテーマにした展覧会が開催されることはほとんどない。この展覧会が一つの契機となって、近代日本音楽史への関心が高まるとともに、本展とは異なるテーマやアプローチによって、あるいはより斬新な展示の工夫を凝らして、音楽に関わる展覧会が美術館や博物館という場で広く開催されるようになればと思う。

（ほり　もとあき　東京オペラシティ アートギャラリー／チーフ・キュレーター）

親しみやすい展示への試み

山科芳夫・古谷邦雄

「五線譜に描いた夢―日本近代音楽の一五〇年」は、直筆譜など第一級の音楽資料を全国的規模で集めて展示するという、音楽研究史の上からも稀な、重要な意義を持つ展覧会である。しかし、音楽を職業とする専門家には、一点一点の資料から興味尽きない情報を汲み取ることができても、一般の観覧者には展示内容にどれほどの興味を引くか、という点が未知数でもあった。そこで、ＮＨＫプロモーションは二つの試みを行った。ひとつは「耳で聴く音楽史」、もうひとつは「映像で描く音楽史」。前者は全八回のミニコンサートとして、後者は七五分に及ぶ展示映像として制作した。

ミニコンサートは楽しく有意義な曲目を並べた。幸田延のオリジナル譜による「ヴァイオリンソナタ」、シュメー編曲〝ヴァイオリンと箏〟のための宮城道雄の「春の海」、浅草オペレッタ全盛期のオリジナル譜による喜歌劇のアリアなど、この展覧会のスタッフが今回のミニコンサートのために特別に交渉し用意した曲目である。

我々が本展の企画を考えた際、一五〇年にも及ぶ日本の近代音楽史に精通している一般観覧者はほんの一握りだと予想された。そこで一般観覧者の理解を促進するために展示映像の充実を図ることとし、幕末・明治・大正・昭和の各時代のトピックスを取り上げて、その時代の音楽的環境を描くことを制作方針とした。その結果、全部で七五分にもおよぶ展示映像となり、通常の展覧会では数分程度の長さであることを考えると、その充実ぶりがうかがい知れよう。この展示映像の制作は、番組制作会社テレビマンユニオンが行い、ＮＨＫの持つ映像アーカイブも効果的に活用することによって内容に厚みをもたせた。我々は、著作権問題等、さまざまな障害を乗り越えて、十のテーマタイトル、七五分もの映像にまとめ上げたテレビマンユニオンの制作能力を非常に高く評価している。

このように様々な制作スタッフの努力で、ミニコンサートと展示映像は充実した内容になった。コンサートに〝ミニ〟と名がついてはいるが、実際は一時間に及ぶ本格的コンサートであり、展示作品の補足物として〝展示映像〟と名がついていても、この映像だけで近代音楽一五〇年史として見事に成立している。

これらの努力が、展覧会の集客に少しでもお役に立つことをただただ祈るばかりである。

（やましな　よしお　ＮＨＫプロモーション展博事業部副部長）
（ふるや　くにお　同　文化事業部エグゼクティブプロデューサー）

未来への視点

岡部真一郎

この展覧会は、我が国における一五〇年にわたるヨーロッパの音楽の受容と発展の偉大な歴史を辿るものです。このように大規模にして包括的な展覧会は、これまで全く前例を見ないもので、その重要性については、言を俟たないところであると思われます。

それは、展覧会の趣旨にご賛同をいただき、貴重な資料の出展にご快諾をいただいた多くの機関および個人の方々のお力添えがあってはじめて可能となりました。ここに改めて、心よりの御礼を申し上げます。

加えて何より、明治学院大学において新たな生を受け、二〇一一年に開館したわれわれ日本近代音楽館が、今回、本展の開催にあたり、折に触れて繰り返し心に刻み続けて来たのは、旧音楽館の高邁なる理想に基づく着実な活動の積み重ねへの敬意、そして、私財を投じて活動の中心を担ってこられた遠山一行先生をはじめ、関係者のみなさまの志に対する深い畏敬の念です。

一方、本展は単に歴史上の偉業を讃え、過去を振り返る「回顧」のみにとどまるものではありません。むしろ、様々な紆余曲折を通して、先人たちがしばしば大きな困難に直面しながらも模索を続けた足跡の検証は、それらの事象一つ一つが、今日の豊かな音楽に囲まれた生活、そして文化や社会の有り様と、須らく直接に結び付くものであることを明らかにするのです。

換言するなら、これは、単に音楽の分野にとどまらず、あらゆる面で驚異的とも言える発展を遂げた我が国の近代以降の歴史の諸相の一断面を鮮やかに描き出すと共に、われわれの現在と未来をも眩いばかりの光によって透かし彫りにするものです。

すなわち、明るい部分はもとより、あるいは暗い影をも含めて、それら全てがわたしたちの未来に分ち難く繋がっていることを再認識せしめるのです。

企画・監修を御担当になった先生方をはじめ、本展のために奔走され、またさまざまなかたちでその実現に携わっていただいた全ての方々に今一度御礼を申し上げると共に、この展覧会を一つの出発点として、今後の近代音楽館の活動の一層の充実と、広く音楽／芸術／学術の世界のさらなる発展の一助になるべく、微力ながら、邁進してまいりたいと思います。

（おかべ しんいちろう　明治学院大学文学部教授　音楽館副館長　本展制作責任）

展示構成

この展覧会は、明治学院創立一五〇周年記念行事の一環として企画され、音楽館所蔵資料を中心に、全国の資料館、美術館、個人蔵の貴重な資（史）料を加えて立体的に構成された資料展である。幕末から現代まで、時代とともに歩んできた日本近代音楽の歴史を四つのセクションに分け、以下のテーマの下に展観する。

Ⅰ　幕末から明治へ
——西洋音楽の受容と定着の軌跡を追う

1　序・蘭学と西洋音楽
2　ペリー来航—黒船と楽隊
3　ヘボンと讃美歌
4　軍楽隊の結成
5　雅楽の伶人たちと西洋音楽
6　伊澤修二と音楽取調掛—マニフェスト「国楽創成」
7　唱歌—うたのふるさと
8　鹿鳴館と明治のコンサート
9　明治の文壇と音楽
10　作曲家 幸田延と瀧廉太郎
11　オペラ事始—「オルフォイス」と三浦環
12　明治の楽器
13　田中正平「純正調オルガン」と日本音楽

Ⅱ　大正モダニズムと音楽
——多彩な展開と音楽生活の拡がりを観る

1　山田耕筰の留学と帰朝
2　『詩と音楽』の山田耕筰
3　童謡運動と作曲家たち
4　宮城道雄と「新日本音楽」
5　オペラ！オペラ！—帝劇と浅草オペラ
6　セノオ楽譜
7　萩原朔太郎とマンドリン音楽
8　宮沢賢治と音楽
9　批評の誕生—大田黒元雄と『音楽と文学』
10　徳川頼貞と南葵楽堂
11　二つの「第九」初演

Ⅲ　昭和の戦争と音楽

――新たなメディアの出現と聴衆の拡大、戦時下の音楽状況を振り返る
1-1　新興作曲家聯盟の結成
1-2　橋本國彦の夢
1-3　新興作曲家聯盟と作曲家たち
2　プロレタリア音楽運動の挫折
3　近衛秀麿と新交響楽団
4　ローゼンストックとプリングスハイム
5-1　チェレプニンとチェレプニン楽譜
5-2　ワインガルトナー賞
6　「国民歌謡」と流行歌、戦時歌謡
7　「紀元二千六百年」の祝祭
8　統制団体「日本音楽文化協会」――音楽は軍需品なり
Ⅳ　「戦後」から二一世紀へ
――焼け跡から今日の隆盛への道程を辿る
1　ドキュメント・サンフランシスコ講和条約まで
2　実験工房―滝口修造と若き芸術家たち
3　「アルス・ノヴァ」と電子音楽
4　二十世紀音楽研究所―「現代音楽の祭典」
5　ジョン・ケージとメシアン
6　EXPO'70の音楽
7　武満徹の音楽
8　戦後音楽の旗手たち
9　伝統と音楽・音楽の東西
10　オペラの「戦後」と現在
11　オーケストラの現在

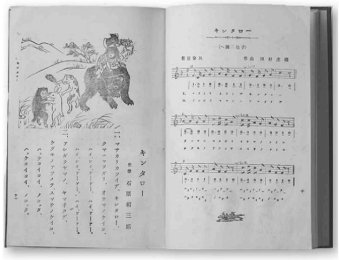
「五線譜に描いた夢―日本近代音楽の150年」

おもな出展資料

●音楽館収蔵資料

秋山邦晴文庫
実験工房「ミュージック・コンクレート電子音楽オーディション」（一九五六・二・四）プログラム ほか
芥川也寸志文庫
芥川也寸志作曲「暗い鏡」自筆譜、三人の会（一九五四・一・二六）ポスターほか
石井眞木資料
石井眞木作曲「日本太鼓とオーケストラのためのモノプリズム」自筆譜
伊藤昇文庫
伊藤昇作曲「幼年の詩」自筆譜、坂口安吾書簡［一九三三・五・二五 消印］、チェレプニンの伊藤昇作品評 ほか
伊福部昭資料
伊福部昭作曲「映画〈キングコング対ゴジラ〉の音楽」自筆譜
遠藤宏文庫
日本音楽会プログラム（一八八九・五・一八）、『中学唱歌』（一九〇一・三）
大田黒元雄文庫
大田黒元雄著『バッハよりシェーンベルヒ』（一九一五・五）、C.ドビュッシー作曲 Pelléas et Mélisande de Maurice Maeterlinck ヴォーカルスコア（Paris, c一九〇二）ほか
木村重雄資料
二〇世紀音楽研究所「第一回現代音楽祭」（一九五七・八・一〇-一三）プログラム
清瀬保二文庫
清瀬保二作曲「弦楽四重奏曲」自筆譜、「新興作曲家聯盟記録二　一九三二-一九三三」ノート、新興作曲家聯盟「第一回試演会」（一九三〇・六・一六）プログラム、日本音楽文化協会発会式次第（一九四一・一一・二九）ほか
呉泰次郎文庫
ワインガルトナー賞賞状（一九三九・五・一五付）、呉泰次郎作曲『主題と変奏曲』レコード（一九四二）
関鑑子資料
日本プロレタリア音楽家同盟「第四回プロレタリア大音楽会」（一九三二・三・二六-二七）ポスター、関鑑子監修『青年歌集』（一九四九・三）
髙田三郎資料
髙田三郎作曲「水のいのち」（混声版）より第一曲「雨」自筆譜

武満徹文庫
武満徹作曲「弦楽のためのレクイエム」「ノヴェンバー・ステップス」自筆譜ほか
田中正平資料
Testimonials, etc.: relating to the "Enharmonium" invented by Shohé Tanaka (London, 1891.7)、田中正平採譜「長唄 越後獅子」楽譜
富樫康文庫
早坂文雄はがき（一九四八・五・一五付）
戸田邦雄文庫
戸田邦雄による一二音技法の研究と試作、戸田邦雄作曲「ピアノ三重奏曲」自筆譜
外山國彦文庫
『オルフオイス演奏紀念』（一九〇三・七）、納所弁次郎・田村虎蔵共編『教科適用幼年唱歌　初編上巻』（訂正六版一九〇六・六）、中山晋平作曲『ゴンドラの唄』（六版一九一八・一〇）、中山晋平作曲『カチューシャの唄』（二九版一九一九・五）、山田耕筰作曲『野薔薇』（一九二四・八）ほか


『教科適用幼年唱歌』

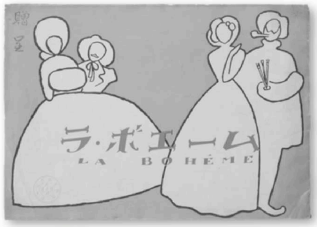
『野薔薇』

外山道子資料
外山道子作曲「やまとの声」筆写譜
中村洪介文庫
J. ローゼンストック「ローゼンストック回想録」オリジナル稿
橋本國彦資料
橋本國彦作曲「お菓子と娘」「交響曲ニ調」［交響曲第一番］自筆譜
早坂文雄資料
早坂文雄作曲 映画「羅生門」の音楽、「ユーカラ」自筆譜
平尾貴四男文庫
平尾貴四男作曲「管楽五重奏曲」自筆譜、日本現代音楽協会「現代音楽第一回定期公演会」（一九四七・一一・二三）
弘田龍太郎文庫
弘田龍太郎作曲『浜千鳥』（一九二九・三）
藤井清水資料
藤井清水作曲『大島女』（再版一九二四・八）
松村禎三資料
松村禎三作曲「チェロ協奏曲」「沈黙」自筆譜
黛敏郎文庫
黛敏郎作曲「〈太陽の塔〉の音楽」テープ、『諸井誠＋黛敏郎　電子音楽七のヴァリエーション、武満徹　ミュージックコンクレートのための三つの作品』レコード（一九五七）ほか

『浜千鳥』

三木稔資料
三木稔作曲「序の曲」自筆譜ほか
三善晃資料
三善晃作曲「混声合唱と管弦楽のための〈詩篇〉」「遠い帆」自筆譜
山田耕筰文庫
山田耕筰作曲「赤とんぼ」「交響詩〈曼陀羅の華〉」自筆譜、川喜田煉七郎設計　霊楽堂デッサン、日本楽劇協会第一回公演（一九二〇・一二・二八・三〇）ポスター、伊藤清永画「ある日の山田耕筰」ほか
矢代秋雄文庫
矢代秋雄作曲「交響曲」自筆譜ほか
吉田隆子文庫
吉田隆子「鍬」自筆譜ほか
東京混声合唱団資料
間宮芳生作曲「混声合唱のためのコンポジション第一番」自筆譜
柴田南雄作曲「追分節考」自筆譜
一般蔵書
手稿譜
Ch. ルルー作曲「抜刀隊」自筆譜
絵画
楊洲周延画「欧洲管絃楽合奏之図」ほか
印刷譜
文部省音楽取調掛撰『箏曲集』（一八八八・一）、『鉄道唱歌』（一九〇〇・五）、R. シュトラウス作曲「日本の皇紀二千六百祭のための祝典音楽」（一九四〇）ほか

「今日の音楽　西武劇場オープニング記念公演」



二期会「第１回オペラ公演〈ラ・ボエーム〉」

プログラム
『ロシア大歌劇団公演 歌劇「ボリス・ゴドウノフ」番組』（一九二六・九・二四-二五）、『ロシア大歌劇団公演 歌劇「カルメン」番組』（一九二六・九・二六）、「今日の音楽 西武劇場オープニング記念公演」（ミュージック・トゥデイ第一回）（一九七三・五・二三-二七）、二期会「第一回オペラ公演〈ラ・ボエーム〉」（一九五二・二・二五-二八）ほか
ドキュメント類
明治音楽会正員規定（一八九八・一一・二一付）

●明治学院大学図書館蔵書
J.C. ヘボン編訳『和英語林集成』初版（American Presbyterian Mission Press, 1867）、讃美歌委員編　植村正久ほか著『新撰讃美歌』〔譜附改訂版〕（一八九一）ほか

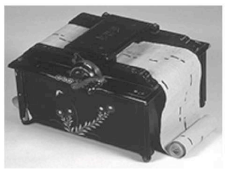
以下の団体・個人の皆様より貴重な資料をご提供いただきました。厚く御礼申し上げます。

●団体
株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所　W. M. ヴォーリズ　南葵楽堂設計図（一九一七）
複写
江戸東京博物館　高木徳子一座（一九一六・六・二三）ポスター、「観音劇場公演 南欧の詩人（ボッカチオ）歌はトチチリチン」絵はがき（メロディー社）ほか
大分市歴史資料館　瀧廉太郎作曲「花」自筆譜レプリカ
お茶の水女子大学附属図書館　清水たづ〔写〕「保育唱歌」
宮内庁宮内公文書館　「御沙汰留　自明治三年至明治十二年」
甲南学園貴志康一記念室　貴志康一作曲「日本組曲」より〈道頓堀〉自筆譜ほか
神戸女学院大学図書館　大澤壽人作曲「ピアノ協奏曲第三番〈神風協奏曲〉」自筆譜
古賀政男音楽博物館　中山晋平作曲「東京行進曲」レコード（一九二九）、万城目正作曲『リンゴの歌』（一九四五？）ほか
こんにゃく座　林光作曲「セロ弾きのゴーシュ」オペラシアターこんにゃく座公演（一九八六・九・二六-二七）ポスター
国立音楽大学附属図書館　大和田建樹，奥好義編『明治唱歌　第一集』（一八八八・五）、歌川国政（五代目）画「小学教育軍歌寿語禄」（一八九二・一）

『リンゴの歌』

国立音楽大学楽器学資料館　田中正平考案　純正調オルガン（一九三六）
警察博物館　信号喇叭（陸軍大阪砲兵工廠江名製作所，一八八四）、ビューグル（Besson 社，一八八六 輸入）
警視庁音楽隊　ヘリコン（Heckel 社，一八八〇頃輸入）
ショット・ミュージック　一柳慧作曲「交響曲〈ベルリン連詩〉」自筆譜、細川俊夫作曲「班女」自筆譜
台東区立旧東京音楽学校奏楽堂　本居長世作曲「赤い靴」自筆譜
東京藝術大学附属図書館　伊澤修二著「音楽取調ニ付見込書」（一八九七・一〇・三〇付）、信時潔作曲「海ゆかば」自筆譜、B. ブリテン作曲「シンフォニア・ダ・レクイエム」
自筆譜ほか
東京藝術大学大学美術館　文部省音楽取調掛編『小学唱歌集　初編』版木（第八、一九丁）ほか
長崎県美術館　彭城貞徳画「和洋合奏之図」
鳴門市ドイツ館　ベートーヴェンの第九交響曲　徳島オーケストラ第二回管弦楽演奏会（一九一八・六・一）プログラム
日本近代文学館　『赤い鳥』二巻五号（一九一九・五）、宮沢賢治著『春と修羅』（一九二四・四）ほか
藤村記念館　島崎藤村 自製アルバム第一巻（一九一四頃）
萩原朔太郎記念　水と緑と詩のまち前橋文学館　萩原朔太郎作曲《機織乙女》自筆譜、萩原朔太郎愛用のギター（Puglisi Reale e Figli 製，一九一五）
浜松市楽器博物館　縦型ピアノ（日本楽器製造 no. 八七一　一八九九 頃）
宮城道雄記念館　宮城道雄考案　十七絃箏「落葉の踊」　新谷喜恵子作（一九二四、のち改造）、宮城道雄作曲《飛鳥の夢》自筆点字楽譜
宮沢賢治記念館　宮沢賢治著「双子の星」自筆稿複写　ほか

民音音楽博物館　紙腔琴（戸田欽堂，一八八四）、多忠亮作曲『宵待草』（五版一九二四）
横須賀市　團伊玖磨作曲「夕鶴」（改訂版）、「こどものうた一」自筆譜
横浜開港資料館　横山時矩画「着船の図」
公益財団法人読売日本交響楽団　G. ロッシーニ作曲「〈エジプトのモーゼ〉の二重唱」自筆譜　＊カミングズ・コレクション
早稲田大学図書館　宇田川榕菴訳編「大西楽律考」


紙腔琴

●個人

手稿譜　芥川也寸志作曲「エローラ交響曲」自筆譜、池辺晋一郎作曲「高野聖」自筆譜、一柳慧作曲「モモ」（改訂版）自筆譜複写、入野義朗作曲「絃楽六重奏曲」自筆譜、野平一郎作曲「彼方、そして傍らに」自筆譜複写、深井史郎作曲「パロディ的な四楽章」自筆譜、諸井三郎作曲「交響曲第三番」自筆譜、柴田南雄作曲「優しき歌」自筆譜、林光作曲「原爆小景」、編曲「星めぐりのうた」自筆譜、湯浅譲二作曲「内触覚的宇宙」ほか自筆譜
印刷譜　H. ルーミス，奥野昌綱編『教（おしえ）のうた』（一八七四）、S. R. ブラウン，奥野昌綱，高橋五郎編『讃美歌』（原胤昭，一八八一・八）、望月京作曲 Musubi (Breitkopf & Härtel, c二〇一一)
その他　『帝国劇場附属技芸学校写真帖』（一九一〇・一〇）、音楽報国挺身隊腕章、佐藤慶次郎作「ススキ三B（八本）」（二〇〇七・二〇〇九）、佐藤慶次郎画　日本万国博覧会三井グループ館スペースレビュー用群集スピーカー説明スケッチ、福島和夫音楽「水泡は創られる」福島秀子構成　オートスライド、鈴木博義音楽「試験飛行家W・S氏の眼の冒険」　山口勝弘構成　北代省三撮影　オートスライド

試聴コーナー曲目

公益財団法人 ロームミュージックファンデーションおよび株式会社 日本音声保存のご協力を得て、大正時代、昭和前期それぞれの展示スペースに試聴コーナーを設けた。曲目は左記の通り。

〔大正〕
三浦環　プッチーニ「蝶々夫人」より「ある晴れた日に」（一九一七録音）
久野ひさ　ベートーヴェン「ピアノソナタ第一四番作品二七―二〈月光〉」第三楽章（一九二二～二三録音）
カラーチェ「前奏曲第九番作品一一〇」（一九二五録音）
宮城道雄＝シュメー「春の海」（一九三二録音）

〔昭和〕
鈴木鎮一、グルリット　フランク「ソナタ」第一楽章（一九二八録音）
貴志康一「道頓堀」（一九三五録音）
藤原義江「サンタルチア」（一九二七録音）
平岡養一　モンティ「チャルダシュ」（一九四〇録音）

ミニコンサート

付帯イヴェントとして、八回のミニコンサートが企画された。第五回と第八回は近江楽堂、ほかは第四展示室内に客席を設けた。以下に内容を記す。

●第一回　幕末・明治の器楽曲
一一月二日（土）
〔出演〕荒井英治（vn）　松本望（pf）
〔曲目〕
シーボルト「日本のメロディ」
ディットリヒ「Nippon Gakufu : Sechs japanische Volkslieder」より「さくら」「権兵衛が種まく」「婚姻の歌」「琉球節」
瀧廉太郎「メヌエット」「憾（うらみ）」
幸田延「ヴァイオリンソナタ　変ホ長調」

●第二回　明治のうた
一一月九日（土）
〔出演〕与儀巧（T）　NHK東京児童合唱団ユースシンガーズ　吉田桃子（S）　久保紗央里（pf）　大谷研二（指揮）
〔曲目〕
ルルー「抜刀隊」
奥好義「婦人従軍歌」堀内敬三伴奏編曲

スコットランド民謡「故郷の空」　寺島陸也合唱編曲
多梅稚「鉄道唱歌」
小山作之助「夏は来ぬ」
岡野貞一「故郷」　萩原英彦合唱編曲
瀧廉太郎「花」「荒城の月」
瀧廉太郎作曲「荒城の月」　山田耕筰編曲

●第三回　西洋の音・日本の響き
一一月一六日（土）
〔出演〕高柳未来（マンドリン）　益田正洋（ギター）　藤村政芳（vn）　篠塚綾（箏）
〔曲目〕
萩原朔太郎「機織る乙女」
サルコリ「月に向いて」
武井守成「軒訪るる秋雨」「落葉の精」
宮城道雄「春の海」　ルネ・シュメー編曲

●第四回　大正ロマンのうた
一一月二三日（土・祝）
〔出演〕山田英津子（S）　原田圭（Br）　頼田恵（pf）
〔曲目〕
スッペ「ボッカチオ」より「恋はやさしい野辺の花よ」「ベアトリ姉ちゃん」
オッフェンバック「ブン大将（ジェロルスティン大公妃殿下）」より「大将閣下の名はブンブン」
中山晋平「ゴンドラの唄」
多忠亮「宵待草」
杉山長谷夫「苗や苗」
山田耕筰「からたちの花」

●第五回　しのびよる軍靴の音
一一月二八日（木）　近江楽堂
〔出演〕三宅理恵（S）　吉岡アカリ（fl）　高田恵子、楠本由紀（pf）
〔曲目〕
橋本國彦「斑猫」
信時潔「歌曲集〈沙羅〉」より「沙羅」
江文也「台湾の舞曲」
深井史郎「日本の笛」
早坂文雄「うぐひす」
松平頼則「フルートとピアノのソナチネ」

●第六回　昭和の流行歌・戦時歌謡
一二月七日（土）
〔出演〕三宅理恵（S）　与儀巧（T）　岡本知也（pf）
〔曲目〕
大中寅二「椰子の実」
中山晋平「東京行進曲」
塩尻精八「道頓堀行進曲」
古賀政男「丘を越えて」
林伊佐緒「出征兵士をおくる歌」
服部良一「一杯のコーヒーから」
飯田信夫「隣組」

●第七回　新時代の到来―戦後のうた
一二月一四日（土）
〔出演〕山田英津子（S）　前田勝則（pf）
〔曲目〕
團伊玖磨「花の街」
吉田隆子「君死にたもうことなかれ」
中田喜直「さくら横ちょう」
武満徹「翼」
林光「歩く歌」より「くらかけの雪」「すきとおってゆれているのは」

●第八回　戦後から21世紀へ―戦後の器楽曲
一二月二〇日（金）　近江楽堂
〔出演〕荒井英治、戸上眞里（vn）　須田祥子（va）　金木博幸（vc）　松本望（pf）
〔曲目〕
武満徹「妖精の距離」
湯浅譲二「内触覚的宇宙」
清瀬保二「ヴァイオリンとピアノの二楽章」
黛敏郎「BUNRAKU」
三善晃「弦楽四重奏曲第三番〈黒の星座〉」

解説　林淑姫　樋口隆一（第六回のみ）
司会古谷邦雄
協力　株式会社ヤマハミュージックリテイリング

資料受入報告

神原音楽事務所プログラム

八月六日、神原音楽事務所制作の演奏会プログラムを受贈した。資料は、二〇〇三年事務所解散後神原氏宅に保管されていたもので、解散直後、旧音楽館に収められたプログラム類とともに保存、整理される予定である。

『音楽旬報』バックナンバー受贈

七月三日、音楽ジャーナリストで『音楽旬報』の編集発行人を務められた佐々木光氏より『音楽旬報』（前身紙『コンサート新聞』を含む）バックナンバー一式を受贈した。資料は、『コンサート新聞』創刊号（一九五一）から『音楽旬報』終刊号（一九九八）までの全一四七六号。また、東京音楽ペンクラブ関係資料を併せて受贈した。

●新設記念文庫

「渡邉浦人資料」

五月一六日、作曲家故渡邉浦人氏（一九〇九・三・二～一九九四・一〇・一八）の資料を受贈した。

「交響組曲〈野人〉」（一九四一）で広く知られる渡邉浦人氏は、オペラ「大伴家持」（一九四三）交響詩「日本太鼓」（一九四四）「ギターと管弦楽による三つの詩」（一九六八）「木琴協奏曲〈大和の幻想〉」（一九七〇）などを発表、また、熱心に音楽の普及、教育に取り組む一方、映画「赤胴鈴之助」シリーズ、テレビドラマ「まぼろし探偵」など、多くの映画音楽、放送音楽を手がけた。

受贈資料は故人宅で保管されてきた総ての作品資料で、自筆譜、印刷譜、録音資料、演奏会プログラムなどである。

◇日誌から◇

二〇一三年一月～一〇月

■二〇一二年度

〈二〇一三年〉

一・五　冬期休館終了。

一・一二　神奈川県立近代美術館「実験工房展」に資料出品、協力（三・二四まで。以後四館巡回）。

二・二　国際資料情報協会（ＩＡＭＬ）入会。

三・五　二〇一二年度第三回収書委員会開催。収書方針、資料受入について討議。

■二〇一三年度

四・一　音楽図書館協議会加入。

四・二四　国立国会図書館音楽映像資料課、見学。

五・一六　渡邉浦人資料搬入終了、記念文庫設置。

五・二二　閲覧用ＰＣ増設。

七・二三　二〇一三年度第一回収書委員会開催。資料受入等について討議。

八・一　国立女性教育会館女性アーカイブセンター企画展示「音楽と歩む」に資料協力（一二・一五まで）。

八・三　大学夏期休暇に伴う土曜休館（九・一四まで。八・八～一六　夏期休館）。

九・三　雑誌『東京人』一〇月号に資料提供。

九・一九　ＮＨＫ高松放送局ＴＶニュース取材に協力、資料提供。

九・二五　大佛次郎記念館ミニ展示「大佛次郎の音楽館」に協力（一一・四まで）。

一〇・五　世田谷文学館企画展「幸田文展」に資料協力（一二・八まで）。

一〇・一〇　展覧会「五線譜に描いた夢―日本近代音楽の一五〇年」内覧会。

一〇・一一　展覧会「五線譜に描いた夢」開会（一二・二三まで）。

一二・一　『館報』二号発行。

編集後記

館報二号をお届けします。今号は現在開催中の展覧会「五線譜に描いた夢―日本近代音楽の一五〇年」特集です。◁会期は残り少なくなりましたが、関連イベントのミニコンサートや会場内の試聴コーナーなどで、普段あまり耳にする機会のない「音」に触れていただくのも一興かと思います。◁館報制作にあたり、木杏舎上村部長には一方ならぬお世話になりました。ありがとうございました。（七階人）

第2号　二〇一三年一二月一日発行
編集発行人　秋月　望
発行所　明治学院大学
図書館付属日本近代音楽館
東京都港区白金台一―二―三七